

〔優秀賞〕

◇ 「当たり前への疑問」 ◇

界小学校 6年 大川 心実

私は男女共同参画を考えるにあたって、母がよく言っている「無意識の差別・男女役割」について、母の「なんで？」を思い出しました。

私の母は営業職をしていて、帰りがおそいときは7時ぐらいになることもあります。低学年の時は、友達のお母さんは3時ぐらいには家にいて、むかえにきてくれるのでいいなと思っていました。なんで私の母だけ帰りがおそいのだろうと思ったこともありました。習い事の送りむかえもみんなは、お母さんがむかえにきているけれど、私の家は父が多いです。そう言うと、決まって母に、

「なんでお母さんの帰りが早くて、送りむかえはお母さんがやるものだと思うの？」と聞かれます。

「お母さんがフルタイムで働くのはおかしいことなの？視野をもっと広くもたない。」こんなやりとりを何度したことでしょう。

私の父と母は私が生まれる前から共働きです。父は母と同じくらい料理や洗たくができます。送りむかえや夕飯はだれがやるかと今週の予定を確認しています。父と母は協力して家事をしているのだなと思います。そして、母の口ぐせは、『なんで』。なんで母さんだけ早く仕事を切り上げないといけないの？なんで泊まり出張は調整しないといけないの？なんで送りむかえは、母さんがやるの？たくさんの「なんで？」を言います。私は、母の言葉を聞くうちに、当たり前と思っていたことに疑問をもつようになりました。女性は家事・

育児を優先して、男性は仕事を中心と無意識に思いこんでいることに気がつきました。母が言うその「なんで？」は、みんなが疑問に思っていることだと思います。これからも、男女差別をなくしていく、合い言葉になってほしいです。

私には夢があります。ヘアメイクアーティストになりたいです。そして、たくさん働きたいと思っています。子供もほしいです。その時でも、私の父や母のように協力して、家事・育児をし、好きな仕事で個性をかがやかせていきたいです。女だから、男だからと無意識に考えてはいませんか。自分で自分を差別していませんか。やりたいことを諦めて、ついつい仕方がないと思ってはいませんか。特に日本は男女格差が大きく先進国で最低レベルの120位です。男性も女性も関係なく、やりたいこと・好きなことができる世界になってほしいです。男性だから働く、女性だから働かない、という考え方はなくしていきましょう。この世に生まれた私たちは個性を大切に、平等に過ごしていかなければならないです。そのためには、男性、女性の役割にとらわれていないか疑問をもつこと、おたがいに協力しあい、思いやりの心をもつことが何より大切なのだと思います。